

生誕 120 年 東郷青児展 抒情と美のひみつ

ふくやま美術館 17.07.08~09.03 損保ジャパン日本興亜美術館 17.09.16~11.12
久留米市美術館 17.11.23~18.02.04 あべのハルカス美術館(大阪) 18.02.16~04.15



《郷愁 ノスタルジア》1947年 油彩・キャンヴァス
「東郷青児」(1897~1978)の生誕120年を迎え、全国の貴重な作品を集めた「回顧展」が上記4会場で開催される。その内容は、戦後に「東郷様式」と呼ばれた独特のスタイルが確立する1950年代末までを中心とする作品「約60点」と資料「約40点」で、巨匠の“抒情のひみつをひもとく企画”である。

本展は、画家入門の代表作に加えて、「藤田嗣治」と百貨店に制作した対の壁画、再発見された戦前の「二科展」出品作、プライベート・コレクションの希少品などを一堂に紹介し、画伯のスタイル確立までの過程を探っている。



《パラソルさせる女》 左 1916年 油彩・キャンヴァス

画伯が19歳で「第3回二科展」に初出展したもので、対象を幾何学的に分解した構図である記念碑的作品は、天才少年デビュー作品として名声を獲得した。

作品の描き方が、日本最初のキュビズムや未来派風である前衛絵画として話題になり、昭和初期のモダンな美人画は近代女性のタイプを変えてしまったとされる作品であるとされている。

《四重奏》 右 1955年 油彩・キャンヴァス 「二科展」出展作品
大輪のバラの花束のような華麗さがある美しい場面の作品である。

